

平成18年度第3回尾張旭市交通問題懇話会

1 開催日時

平成18年10月3日（火）

開会 午後3時

閉会 午後5時30分

2 開催場所

尾張旭市役所 南庁舎3階 講堂1

3 出席者名

会長：加藤哲男 副会長：黒田鉦司

構成員：伊藤寛、小川智子、奥野昌明、苅谷勝、田中悦子、服部正勝、
林喜一、渡辺鎮夫、寺田千珠子、日比野正夫

顧問：伊豆原浩二

事務局：大橋邦弘、秋田誠、長江均、若杉博之、大和弘明

4 議題等

- (1) 第2回交通問題懇話会会議概要の確認について
- (2) 車両について（展示・試乗）
- (3) 見直し後の利用状況について
- (4) マイクロバスの試験運行について
- (5) その他

5 会議の要旨

部長あいさつ

本日は、大変お忙しいところご出席いただきましてありがとうございます。
第3回交通問題懇話会を開催いたします。

本日は今後の本市の公共交通にふさわしい車両の検討を行うため、こうした
車両はどうかというものを2台用意しております。

後ほど実際に乗車などをしていただいて、ご意見、ご感想をいただきたいと
思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

(1) 第2回交通問題懇話会会議概要の確認について

（事務局）

第2回目の概要については、前回出席者に事前に送付させてもらい、確認を
していただいております。すでに市のホームページにおいて公表させていただ
いておりますが、その写しを本日配布させていただいておりますので、よろし

くお願いします。

(2) 車両について（展示・試乗）

（事務局）

本日見ていただきたいのは日野自動車のポンチョとトヨタ自動車のハイエースコミューターの2台です。

日野自動車のポンチョは、車の全長が6m29cm、車両幅が2m8cmであり、定員は運転手を除いて座り席14名、立ち席10名で計24人乗りのものです。

トヨタ自動車のハイエースコミューターは、車の全長が5m38cm、車両幅が1m88cmであり、現行の南西ルート車両と同じ大きさですが、運行上の定員は運転手を除いて座り席12名のみの12人乗りのものです。それでは実際にご覧ください。

＜実際に試乗＞

（会長）

ご覧いただいた感想、意見を皆さんからお聞きしたいと思います。

（構成員）

4つほどの切り口で感想を言うと、①乗降についてはポンチョの方がよい。②安全性についてはポンチョでの立ち席はお年寄りには危ない。足腰が弱っていると、車が止まったり曲がったりした際に危ない感じがする。③居住性、乗り心地についてはハイエースコミューターの方がよい。④車イスで乗る観点から見ると、ポンチョは車イス対応になっているが、ハイエースコミューターは事実上難しい。これからは車イスの利用も増えることを考えるとハイエースコミューターでは疑問符がつく。これらのことを考えると、どちらがよいのかというのは決めかねている。

（構成員）

ポンチョはエンジン音（ディーゼル）が大きすぎる。まだ観光バスの方が静かである。また、ポンチョの最後尾席はかなり段差があり、座りにくい。乗降についてはポンチョの方がよいが、立ち席というのはコミュニティバスにとっては不向きであると考えている。一方のハイエースコミューターで霞ヶ丘を通ることができるのであれば、現行ルートのままでハイエースコミューターを走らせればよいのではないか。

(構成員)

外観についてはポンチョの方がかわいいが、乗り心地についてはちょっと揺れ過ぎである。安全性のことを考えると、きちんと座れるハイエースコンピューターの方がよい。ただ、両方に良し悪しがあって決めかねている。

(構成員)

乗り心地はハイエースコンピューターの方がよい。乗降についてはポンチョの方がよい。毎年利用者が増えてきているので、またこれからどのくらい利用客が増えるかわからないが、将来を考えると乗車定員の多い車の方がよいのかもしれない。

(構成員)

端的に言ってポンチョはいい。しかし、特に西ルートの場合は道路が狭く、運行の難しいところがある。そうかといってハイエースコンピューターにしても、追加タクシーの解消には難しい感じがする。また、ハイエースコンピューターの車内の印象が非常に暗い。もっと明るい車両の方がよい。特に、安全性で気付いたことを言うと、ハイエースコンピューターの乗降口近くに座席が設けられている部分があり、ドアの開閉時に転げ落ちやしないか、心配に思った。

(構成員)

ポンチョは“いいなあ”という感じである。現行のワゴン車というのは乗合向きの車両ではない。中には気分の悪くなる人もいたようですが、やはり、たくさん乗れるという点でポンチョがいい。乗降のしやすさをとつてもポンチョの方がよいが、脱着式のスロープはもっと簡単なものにした方がよい。今のスロープの出し入れでは非常に面倒である。また、積み残しがなくなることが一番大切な点であるので、ポンチョが導入されるようになるといい。

(構成員)

ハイエースコンピューターについては、ステップがもう少し低い方がよい。

(構成員)

私自身が積み残された経験がたくさんある。特に2台目のタクシーはすごく時間がかかるので、医者予約時間に間に合わないんじゃないか、乗り継ぎに間に合わないのではないかと不安になってしまう。そのようなことが起こらないことを第1条件とすると、やはりポンチョの方がよい。ハイエースコンピューターでは、あまり積み残しの解消にはならないのではないか。

(構成員)

ハイエースコミューターの天井は高いので頭を打つ危険性はない。ただ、視野が狭く、通路の狭いのが難点である。ハイエースコミューターは12人しか乗れないと説明があったが、何とかして14人乗れないのか。一方、ポンチョは車イスでの利用ができることや通路が広い点がよいが、狭い道でのすれ違いができるかどうか心配である。

(構成員)

私自身は乗る機会が少ないが、私も含めて一般的に乗ってみたいと思わせるような車両が良いと思う。その点ではポンチョが良いと思う。今後も利用客が増えた場合のことを考えると、乗車定員の多いポンチョにしておいた方がよいのではないかと思う。

(構成員)

追加タクシーが15分も来ないと、ものすごく待っている感じがする。そういったことを解消できるのはポンチョの方ではないか。ただ、ポンチョの座席のクッションをもう少し厚みのあるものにして、乗り心地を良くしてほしい。立ち席の場合は縦棒につかまっていれば大丈夫である。積み残しのことを考えるとハイエースコミューターでは今と同じ事で、解消にまでは至らない。ただ、狭い道のある西ルートはハイエースコミューターでの運行の方が安全かもしれない。

(構成員)

現行車両でも助手席は危ないので、ハイエースコミューターでは助手席利用は止めた方がよい。

(会長)

普通免許の乗合車両であれば助手席利用はよいが、大型免許の乗合車両になると助手席には乗せられない。本日の意見を聞いていると、積み残しの課題があるので、また事務局では検討いただきたい。

(3) 見直し後の利用状況について

(事務局)

開始当初、平成16年12月から第1回目の見直し前の利用者が1日当たり181人であったのに対し、平成17年8月からこのたびの見直しまでが260人、そして、現在では313人と推移しており、全体として現在は運行当初

の期間と比べると73%の伸び、第1回ルート見直し後の期間と比べると20%の伸びとなっています。

乗り継ぎと追加タクシーの1日当たりの状況もルートの見直しに従って数が増えています。

8月7日から回数券を販売しており、9月末現在で901冊販売されています。また、全体の利用者のうち4割強が、この回数券を利用して乗車し、非常に好評を博しております。

9月にOD調査をした結果、市役所と三郷南が、核として拠点の停留所として機能し、それらから、各駅、病院、そして、西ルートでは平子周辺へ、東ルートでは旭台、旭ヶ丘、あたご保育園前というところへの移動が多い状況となっています。

また、9月下旬に利用者アンケートを実施しましたが、その自由意見をご紹介しますと、「朝夕をもう1便増やして欲しい。」「運転手は運転技術もよく感謝している。」「車両については乗り心地がよい。」「南西ルートができて便利。」「100円はありがたい」などの意見をもらっています。

その他、ルート見直しを周知してから市に直接寄せられた意見としては、旭前などから直通で愛知医大へ行けなくなったことや、また、利用者アンケートでは評判が良かった運転手についても、その対応に対する要望、苦情が寄せられました。

(構成員)

今回実施したアンケートはあくまで利用者の意見を聞いただけのものであり、当面利用する予定のない人も含めたもっと広範囲なアンケートを公民館などを利用して実施してはどうか。実際にアンケート配布時期に乗車してみたが、運転手からアンケートに協力くださいという声がかからなかったこともある。

また、これは自分たち独自の活動であるが、西ルートと南西ルートで8月20、21日の2日間にスピーカーの付いた車で広報活動をやらせていただいた。市でも今以上に周知徹底をしていただけるとありがたい。例えば停留所の表示でも、電柱に巻きつけてある所は歩いていても分かりにくい。

次にルートの件だが、旭前から愛知医大へ直通で行けなくなった、西ルートからユーストアに行けなくなった、という声がある。やはり今まで通り行けるという要素も残ってはいけないのではないか。

料金についても、障害者の料金取扱いはどうするのか。また、今回の見直しで乗り継ぎ場所が増えたが、乗り継ぎ券を発行し、市内ならどこでも100円で行けるようにしてほしい。

(事務局)

アンケートについては、最初時から一定の項目で利用者の意見を蓄積しており、時系列で比較するため今回も実施した。未利用者を対象にしたものは、公共施設にアンケート用紙を置いて実施するなど、一度検討してみたい。西ルートと南西ルートでの広報活動については、市民活動ということでありがたく思っている。停留所については、なるべくお金のかからない方法で周知をしていきたい。今回の見直しで直通で行けなくなった所があるのは非常に残念だが、すぐに改善しますとはなかなか言えない。懇話会としては障害者の料金は無料という総意であるので、来年度のしかるべき時期に具体的なアクションを起こしたいが、今はそこに向けて内部で検討を行っている。

(構成員)

日進市では、乗り継ぎ券を発行しているが、乗車の際に正規の料金を支払わず、もらった乗り継ぎ券で乗ってしまうという例があると聞いたことがある。

(構成員)

以前広告の話があったが、今はどのような状況か。イトーヨーカ堂では発車時刻の前に館内放送がかかっていたので、スーパーの協力はありがたいと思った。今度は、金銭面での協力もしてもらえるといいと思う。

(事務局)

広告の件は、全庁的にこのシステム以外でも広告をどうすべきかという検討を行っている。その検討結果が出た時点で導入をしていこうと考えている。今しばらくお待ちいただきたい。イトーヨーカ堂の館内放送は市から依頼したが、このようにやれることは少しずつでもやっていきたいと思っている。

(構成員)

今回の新しいルートに感謝している人は多いようだ。これからも改善をしていくというスタンスで取り組んでいてもらいたい。今ではこのバスが「まちの風景」の一部のような感じがしている。利用していない人たちが乗ってみたいなと思う宣伝をしていてもらいたい。

(会長)

日常の通行の場面でも、バスが通ったら一般の自動車が道を譲ってあげなくてはと思わせるようになることが大事である。

(顧問)

広報活動の一つとして、転入者にはパンフレットを必ず渡してもらいたい。それから、どうしたらみんなが使いやすくなるのかなということを皆さんで考えていてもらいたい。見直しによって停留所がなくなってしまうというのはしょうがない面もある。今は停留所から500mの範囲内であれば同じサービスを享受しているんだと考えてもらいたい。それよりも、どうしたらサービスを向上できるかを考える必要がある。例えばフリー乗降というのもその一つである。10月1日から道路運送法が改正され、今後は料金やサービスを地域の人たちで決めていけるようになった。大事なことなので、構成員の皆さんに10月1日からどういった点が変更になったのかを説明していただくとよい。

(事務局)

転入者へのパンフレット配布については、以前顧問からアドバイスされた折からすでに実施しています。また、道路運送法の改正についてはきちんと勉強をしてまとめ、次回には説明させていただく。

(4) マイクロバスの試験運行について

(事務局)

現状の車両を将来に向けて見直しをしたときに、現在設定したダイヤのとおり運行できるか、あるいは、積み残しの解消にどれほど寄与するのかなどを検証するため、10月10日（火）から12月9日（土）まで、東ルートにおいてマイクロバスを導入して試験運行を実施していきます。

車両は、トヨタコースターで、定員は運転手を除いて座り席28名となっております。

(顧問)

今日見てもらったハイエースコンピューターよりも天井が高い車両である。

(会長)

今みたいに積み残しは、まずないはず。

(構成員)

車両が大きくなるが、ポンチョを導入するための調査なのか。

(事務局)

先ほどの説明のとおり、車両を大きくした場合の状況を調査するものである。

(構成員)

マイクロバスで試験運行をすると、将来同じ車両が導入されると勘違いする人が出てくるのではないか。マイクロバスをそのまま導入する考えはないのか。

(事務局)

ポンチョとマイクロバスとではいろいろな面で違いがあり、そのままマイクロバスをといる考えはない。

(構成員)

本当はポンチョを試験運行に導入できると一番よかったが。

(会長)

市で努力をしてもらったが、ポンチョでの試験運行は難しかったようだ。ご容赦いただきたい。このマイクロバスでの試験運行では、今まで積み残しがあるから乗らなかったという人たちが、新たに乗るようになるかもしれないので、そういったことも調査していく試験運行である。

(顧問)

この試験運行期間中に増えた利用者の方々を、12月9日以降は、また追加タクシーで運ぶのかという心配がある。

(構成員)

試験運行期間が終わると、またジャンボタクシーになるのか。正式な車両が入るまで、このマイクロバスで運行を続けていけるといいが。

(構成員)

マイクロバスでの試験運行が終わった後が大変だと思うので、終了1週間くらい前には、この試験運行は本格運行に移るための調査なので、再び9人乗りワゴン車に戻ることを誤解のないようPRしなければならない。

(構成員)

車内に「マイクロバスは試験運行期間のみで終了」のポスターを貼っておけばいいのではないか。それから、ルート上の駐車車両は大丈夫か。

(顧問)

バスが走ることを自治会などを通じて住民に協力依頼をする必要がある。

(5) その他

(事務局)

事務連絡として、10月14日(土)は市民祭が開催されるため、西ルートの一部変更して運行するのでご承知おきください。

次回の懇話会は12月もしくは1月に開催する予定。内容としては、引続き車両の関係、愛称・デザインについての決定方法などについてご議論していただきたいと思っています。